

今日の説教のポイント<マタイによる福音書 21 章 18~22 節>

①不可解な奇跡？ マタイが伝えようとしたことは何か？

イエス様がいちじくの木を枯らされる、ちょっとひどいように思われる奇跡物語です。しかし、だからと言ってそれで終わりにするのではなく、むしろ、「マタイは、一体、これで何を言おうとしているのか」を考えなければなりません。幾つか手がかりがあります。1) いちじくは神様の加護にゆだねようとしないうイスラエルを象徴して用いられてきたこと（エレミヤ8:13、ホセア9:10）。2) この記事のすぐ前で、イエス様が神殿で真剣に神様に向かわなくなった人々を怒られたこと。3) この記事のすぐ後で、イエス様の権威（神からの方であること）を認めようとしないう人々に、もはや福音を語ろうとされていないこと（「私も言うまい」27）。問題は、いちじくの木がどうのこうのではなく、私たちは神様にどんな態度を取っているか、です。それが問われているのです。

②イエスとは誰か？ 私たちが信頼を寄せるに足る権威ある方！

この後イエス様は、たちまち枯れた現象に目を奪われている弟子たちに、「疑わずに信じ抜く信仰」の大切さを説かれました。しかし、「山を動かすほどの信仰」についてはすでに語られています(17:20)。間違っただけではありません。ここで言われていることは、「信じたなら何でも可能となるのだ」というようなことではありません。イエス様はゲッセマネでの祈りで、「死という杯を去らせてほしいが、最後は父なる神様の御旨のままに」と祈られました(26:39)。パウロは、「山を動かすほどの信仰を持っていても、愛がなければ無に等しい」と教えています(I コリント 13:2)。ここから私たちが聞き取らなければならないことは、イエス様の教えや行動そして十字架の死と復活、それらの意味を知ったなら、この方を絶対的に信じて生きる者となりなさい、ということです。そうしたら自分の願いがみんな叶うからというのではなく、このイエス様を送って下さった神様を絶対的に信じて生きるなら、もう何が起ころうとも怖くなくなるからです。自分が困った時だけ神様の方に向かって助けてもらうような信仰ではだめです。いつも神様を信頼し、神様に聞き従いながら生きるから、もう何も怖いものはない、そう思えるようになってほしいと思います。